

令和2年度第2回座間市地下水保全連絡協議会 会議録

- 1 期 間 令和3年3月8日（月）～22日（月）
- 2 場 所 書面会議
- 3 出席者 委 員 岩田委員、小俣委員、室星委員、小林委員、山田委員、渡邊委員、
原委員、三好委員
事務局 環境政策課長、環境保全係長、主事1名
- 4 公開の可否 公開 一部公開 非公開
- 5 議 題 座間市地下水総合調査事業委託 令和2年度成果報告について
- 6 資 料 令和2年度第2回地下水保全連絡協議会資料－令和2年度業務成果報告－

7 委員からの意見等

	意見等	対応
会長	1～9ページの現状報告は、理解した。今のまま、推移してほしい。GETFLOWSの更新の図式については、コロナ終息後に改めて解説を求めたい。	・コロナ終息後の説明について承知しました。
	22ページ以降の分析は、労作と思うが、この数年の目久尻川流域の住宅化は、駐車場をコンクリート化しており、降雨の地下浸透への誘導を柵の設置で確保するための44ページの指摘は大事なことである。	・市でも同様に考え、今後も雨水浸透施設等の助成を継続していきます。また、雨水浸透施設等の必要性の説明について検討していきます。
	リニアの影響は今もって明らかでない。静岡県知事がOKを出さない・出せないことは座間の市民としても同じ懸念を共有している。	・今回のシナリオ解析結果で市への影響は確認されておりませんが、計画路線等の周辺に若干の影響の可能性あることを、市としても真摯に受け止めたいと思います。
副会長	令和2年度調査の御報告ありがとうございました。データの蓄積や改善によって、より正確な解析になっています。今後も引き続きよろしく願いいたします。	・今後も引き続き検証を進めてまいります。
委員	今回開示された「地下水総合調査」資料①について、理解(イメージ)を探るため、次の点を記載(追記)を希望します。 ・【P-37】(1)シナリオ1:リニアのモデルを断面だけでなく、長手方向をモデル化した図。 ・【P-40】(4)シナリオ4:100年に1度の渇水が発生するシナリオについて、例えば10年間に渇水が起きる確率(%)とその時の降水量。 ・【P-42】(6)シナリオ6:火山灰が降り積もった堆積厚さ。 ・【P-43】(7)シナリオ7:都市化した主なパラメータの変化。 ・【P-44】(8)シナリオ8:表中の「地点1」と「地点2」を地図上に明示。	・長手方向をモデル化した図の提示について承知しました。*図-1参照 ・確率解析の説明はあらためて行いますが、10年確率の降水量は、表に示すとおり1460.9mmとなります。 ・火山灰の厚さの想定はできないため、涵養量が減少した場合(地表の浸透性が低下)のシナリオを設定しています。*表-1参照 ・都市化により、水田、畑・果樹園、森林の涵養量(地表の浸透性)がパラメータとして変化した場合の解析を行っています。*表-2参照 ・図示について失礼しました。目久尻川上の地点(上流、下流)となります。*図-2参照
	今回開示された「地下水総合調査」資料①の内容(地下水流動解析等)について、学識経験者の評価を受けているのでしょうか。評価を受けているのであれば、その概要について参考までに紹介してほしい。	・シナリオやモデルの設定方法については、説明し了解を得ています。 解析結果は今後説明の予定です。
委員	GETFLOWSモデル更新の修正が実施され、現況の再現性が向上し、モデルの適用性が確認できた事は、大変意義があると感じた。 懸念していた雨水浸透ますの効果がシナリオ解析で確認できたため、改めて設置の推進と、清掃の実施の必要性を感じた。 富士山火山灰による影響は、水位だけでなく、河川・湧水の汚染の影響も大きく、上水場への負担増大にも繋がると思われ、別途検討が必要ではないか。	・上水については、今後の管理指標の検討の中で行っていくことになると考えています。
委員	シナリオ設定に地震が含まれていませんが、可能であれば追加されてはいかがでしょうか。含めることができない理由等があればお聞かせください。	・地震により地下水地盤環境がどのように変化するかを設定することは非常に困難です。これが設定できるということは、地震でどこが崩壊するかなどが把握できている状態である必要があります。 以上より、現時点ではシナリオ解析を行うことは困難と考えています。